



TITLE:

尿道血管腫の1例

AUTHOR(S):

玉井, 秀亀; 西山, 直樹

CITATION:

玉井, 秀亀 ...[et al]. 尿道血管腫の1例. 泌尿器科紀要 1988, 34(2): 340-342

ISSUE DATE:

1988-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/119454>

RIGHT:

尿道血管腫の1例

東京都国民健康保険団体連合会福生病院泌尿器科 (医長: 玉井秀亀)

玉井秀亀, 西山直樹

VENOUS HEMANGIOMA OF THE URETHRA: A CASE REPORT

Hideki TAMAI and Naoki NISHIYAMA

From the Department of Urology, Fussa Hospital
(Chief: Dr. H. Tamai)

A case of urethral hemangioma in a 61-year-old female is reported. She had the complaint of urethral bleeding and difficulty on urination since November 2, 1986. Physical examination revealed a reddish colored, thumb-head sized tumor at the external urethral meatus. All laboratory tests revealed normal findings. At cystoscopy reddish mucosa was found at the distal urethra. With the preoperative diagnosis of urethral tumor, the tumor was removed *en masse* under spinal anesthesia. The tumor mass was $2.0 \times 1.7 \times 1.2$ cm. The specimen was pathologically diagnosed as venous hemangioma of the urethra. The patient remains symptomless for 2 months after the operation.

Six cases of urethral hemangioma including this case have been reported in the Japanese literature and are reviewed briefly.

Key words: Urethral tumor, Venous hemangioma

緒言

良性尿道腫瘍の中でも尿道血管腫は極めて稀な疾患である。今回、われわれは尿道出血、排尿困難を主訴として来院し、摘除術を施行した尿道血管腫の1例を経験した設で若干の文献の考察を加えて報告する。

症例

患者: 61歳, 女子, 無職

主訴: 尿道出血, 排尿困難

家族歴, 既往歴: 特記すべきものなし

現病歴: 1986年11月2日より尿道出血, 排尿困難出現し, 11月7日当科受診し, 尿道腫瘍と診断され, 手術目的にて同年11月21日当科へ入院した。

現症: 身長 152.5 cm, 51 kg. 胸部異常なし。腹部平坦, 軟。肝, 脾は触知せず。表在リンパ節触知せず。血圧 130/90 mmHg, 脈拍 72/min, 整。外尿道口に母指頭大の赤褐色調の軟らかい腫瘍を触知し, 軽度の圧痛も認められた。

入院時検査成績: 末梢血液所見 WBC $3,900/\text{mm}^3$, RBC $351 \times 10^4/\text{mm}^3$, Hb 10.7 g/dl, Ht 30%, Plt $29.8 \times 10^4/\text{mm}^3$, CRP 1+

血液生化学所見: 異常認めず。

検尿沈渣: 尿蛋白 (-), 尿糖 (-), ウロビリノー

ゲン (-), 潜血反応 (++) , RBC 10-15/hpf, WBC 0-1/hpf, rods (-), 尿培養陰性, 尿細胞診 Class I.

膀胱鏡所見: 膀胱内には軽度肉柱形成を認めるもの隆起性病変は認めず, 前部尿道の粘膜の発赤が認められ, 外尿道口の腫瘍へ伸展していた。

入院後経過: 以上より尿道腫瘍の術前診断にて同年11月27日, 腰椎麻酔下, 碎石位にて手術を施行した。

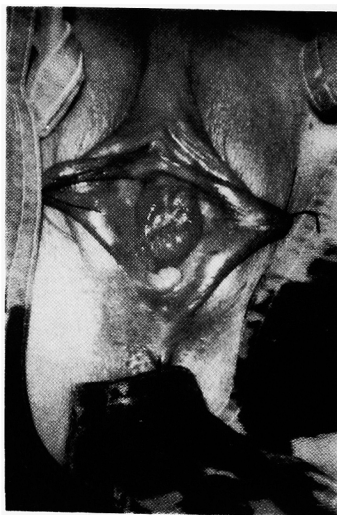


Fig. 1. Urethral tumor at surgical exploration

腫瘍を粘膜下組織と共に切除した。切除端は #4-0 cat gut にて縫合止血した。なお、周囲組織との癒着は認めなかった (Fig. 1)。

摘出標本: 摘出腫瘍は赤褐色調で大きさは $2.0 \times 1.7 \times 1.2$ cm であった (Fig. 2)。

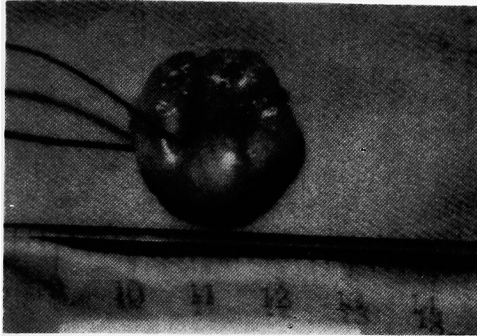


Fig. 2. Gross appearance of surgical specimen $2.0 \times 1.7 \times 1.2$ cm in size

組織学的所見: 毛細血管よりもやや大きい血管の増生とその血管腔の不規則な拡大がみられ、間質は乏し

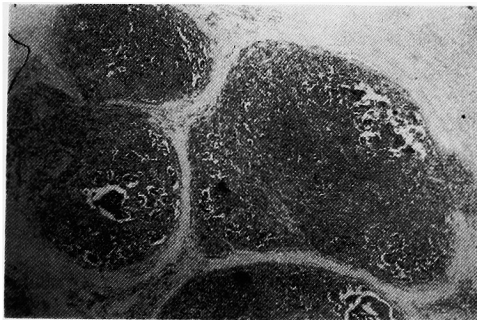


Fig. 3. Microscopic appearance: Dilated (blood-filled) vascular channels and vascular spaces were lined by flattened endothelial cells and separated by bands of connective tissue. H&E, reduced from $\times 100$

い。その血管の構造は静脈に類似しており、内腔には血栓がみられる。以上より静脈性血管腫 (venous hemangioma) と診断された (Fig. 3)。

術後経過: 術後経過は良好で同年12月6日退院したが、現在まで再発の徴候は認められない。

考 察

血管の腫瘍としての血管腫 hemangioma は血管組織から成る腫瘍様の先天的な組織奇形 (過誤腫 hamartoma) であるとされている¹⁾。皮膚にしばしばみられ (血管性母斑 vascular nevus), 顔面などの扁平な port-wine nevus は通常組織学的には毛細血管性血管腫であり、盛り上った strawberry nevus は海绵状血管腫か良性血管内皮腫のことが多いとされている²⁾。Macomber ら³⁾によると281例の症例中59.3%が顔面、頭頸部に位置していたといい、発生学的にこれらの部位に発生することが多い。血管腫はLanding & Farber ら⁴⁾によると Table 1 のごとく

Table 1. Classification of Hemangioma (Landing & Farber, 1956)

1. Capillary hemangioma, Hemangioma simplex
2. Cavernous hemangioma
3. Benign hemangioendothelioma
4. Hemangiopericytoma, Perithelima
5. Venous hemangioma
6. Racemose hemangioma
7. Sclerosing hemangioma

分類されている。下部尿路の中でも膀胱血管腫の報告は1981年 Jacques ら⁵⁾の81例、本邦では1986年関井ら⁶⁾の61例の集計がみられるが、尿道に発生した血管腫の報告は極めて少ない。尿道血管腫としての報告は1895年 Klotz⁷⁾の報告以降、現在まで18例報告されているが、本邦では1962年柳原ら⁸⁾の報告以降、われわれの渉猟し得た限りでは自験例を加えても6例にすぎない。本邦の報告例について示した (Table 2)。

Table 2. Summary of urethral hemangioma reported in the Japanese literature

No	報告者	発表年	年齢	性別	主 訴	性 状	部 位	組織像	治 療
1	柳原 ⁸⁾	1962	43	男	排尿初期血尿	母指頭大	後部尿道	血管腫	腫瘍切除 ⁶⁰ Co照射
2	岩佐 ¹³⁾	1962	46	男	排尿困難、 尿道出血	赤褐色 腫瘍	尿道球部 左側壁	血管腫	会陰式 尿道部分切除
3	山本 ¹⁴⁾	1969	58	女	尿道出血	豌豆大、 暗赤色	外尿道口より 約2cm中心側	血管腫	腫瘍切除
4	大串 ¹⁵⁾	1973	39	男	尿道出血	有茎性、赤色 $1.3 \times 0.7 \times 0.7$ cm	舟状窩尿 道腹側	血管腫	摘 出
5	野口 ¹⁶⁾	1985	21	男	尿道出血	腫瘍多発	舟状窩、 前部尿道	静脈性 血管腫	焼灼 (YAGレーザー) 硝酸銀注入
6	自験例	1987	61	女	尿道出血、 排尿困難	母指頭大 $2.0 \times 1.7 \times 1.2$ cm	外尿道口	静脈性 血管腫	腫瘍切除

年齢および性別では21歳より62歳にわたっており、男子4例、女子1例であった。Watson⁹⁾によると血管腫の発生年齢は73%が出生時に存在し、85%が1歳までに出現し、女子に多いという。このことからすると他の血管腫に比較して遅い傾向にあるといえる。症状としては、全例に血尿または尿道出血を認めており、腫瘍の性格上、易出血性を反映している。腫瘍の性状は腫々と女子外尿道口に発生したものは自験例のみであった。自験例では他の部位に血管腫の合併は認めなかったが、他の報告例では記載のあるものはなく不明であった。組織学的検索がなされた例では、血管腫のみの記載は3例であった。自験例では、毛細血管よりもやや大きい血管の増生と扁平な内皮細胞におおわれた血管腫の不規則な拡大がみられ、その血管の構造は静脈に類似していたことより静脈性血管腫(venous hemangioma)と診断された。

治療においては、種々試みられてはいるものの確立されていないが、手術療法(レーザーを含む)、血管結紮、電気焼灼、凍結手術、凝固剤局所注入等の報告¹⁰⁾がある。血管腫が大きい症例や多発例、再発を繰り返す症例では広範な尿道の切除、尿道形成、場合によっては膀胱瘻などが必要となろう。男子尿道血管腫の手術療法はTilak¹¹⁾、Robertら¹²⁾の尿道切除後にurethroplastyを施行した報告やGreig¹⁷⁾のselective arterial embolizationを施行した報告がみられるが、女子尿道血管腫における手術法についての報告は山本¹⁴⁾の単純な腫瘍切除の他は文献的に発見できなかった。自験例においては、女子症例であり、尿道全周にわたり、粘膜下組織を含め切除し、電気凝固と結紮にて止血可能であったが、その腫瘍の易出血性という性格を考えると手術療法を含めた治療は慎重に進めるべきであろう。

結 語

61歳、女子の尿道血管腫の1例を報告し、これまでの臨床報告例をまとめると共に若干の文献的考察を加えた。

文 献

1) Willis RE: Pathology of tumors. Butter-

- worth & Co, Ltd., London. 718-735, 1976
- 2) 大根田玄寿, 宮地 徹: 血管の病変, 臨床組織病理学, 宮地 徹, 12, 1, 84-86, 杏林書院, 東京, 1980
 - 3) Macomber WB and Wang MKH: The hemangioma. G.P. 8: 41-49, 1953
 - 4) Landing BH and Farber S: Tumors of the cardiovascular system. Atlas of tumor pathology, section III, Fascicle 7. 45-138, Armed Forces Institute of Pathology, Washington, 1956
 - 5) Jacques S, Clifford K and Serge M: Cavernous hemangioma of vesical neck. Urol 17: 75-76, 1981
 - 6) 関井謙一郎, 高寺博史, 滝内秀和, 並木幹夫, 松田 稔, 園田孝夫: 膀胱海綿状血管腫の1例. 泌尿紀要 32: 595-601, 1986
 - 7) Klotz HG: Endoscopic studies on vegetations, polypi, angioma, membranous and diphtheric urethritis, suppration from the ejaculatory ducts, cyst of the colliculus seminalis, etc. N.Y. Med J 61: 99, 1895
 - 8) 柳原正志: 高度の出血を伴う尿道血管腫. 日泌尿会誌 53: 505, 1962
 - 9) Watson WL: Blood and lymph vessel tumors. Surg. Gynecol & Obstet., 71: 569-577, 1940
 - 10) 米川紘子, 中西理恵子, 玉木克彦, 村田清高, 太田文彦: 耳介から側頭部におよぶ広範囲な血管腫の治験例. 耳鼻臨床 76: 1555-1563, 1983
 - 11) Tilak HH: Multiple hemangiomas of the male urethra: Treatment by Denis Browne-Swinney-Johanson urethroplasty. J Urol 97: 96, 1967
 - 12) Roberts JW and Devine Jr CT: Urethral hemangioma: Treatment by total excision and grafting. J Urol 129: 1053-1054, 1983
 - 13) 岩佐賢二: 男子尿道血管腫の1例. 日泌尿会誌 53: 245, 1962
 - 14) 山本 徹, 板谷興治: 尿道血管腫の1例. 日泌尿会誌 60: 815, 1969
 - 15) 大串典雅, 堀内英輔: 男子尿道血管腫の1例. 日泌尿会誌 64: 675, 1973
 - 16) 野口正典, 大塚 坦, 野田進士, 江藤耕作, 谷村晃: 尿道血管腫を合併した陰茎血管腫の1例. 西日泌尿 47: 153-159, 1985
 - 17) Greig WJ: Treatment of urethral hemangioma by selective arterial embolization. J Urol 136: 1304-1306, 1986

(1987年2月9日受付)